



西牧野小だより

10月
7号

枚方市立西牧野小学校通信

TEL 050-7102-9116

FAX 072-851-0035

令和8年10月1日

校長 青木 智充

「知・好・楽」で深める学び ～行事を通して高める「知る力」と「豊かな心」～

爽やかな秋風が吹き抜け、学びやスポーツに絶好の季節となりました。本校の運動場・体育館からも、運動会に向けた元気な声や足音が響いており、練習にも熱が入ってきています。

2学期の本校は、10月の運動会をはじめ、秋の校外学習や11月の放送視聴覚全国大会での授業公開、そして修学旅行と、大きな行事が目白押しのたいへん忙しい時期を迎えます。

運動会の練習が始まった際、3年生の最初の練習の時に、先生方と子どもたちとの対話でこんな話がありました。

運動会を通して、

「1年生から6年生まで全員が笑顔で運動会を終えられること」

「自分はこれを頑張った！と胸を張って言える取り組みにすること」

子どもたちはこの目標を胸に、一步一步練習に励んでいます。



本校では、目に見える学力（認知能力）だけでなく、目標に向かって粘り強く取り組む力や、仲間と協力する心、自分をコントロールする力といった「非認知能力」を育むことを大切にしています。本校で掲げている「自分自身の強み」（やさしさ、聴く力、工夫する力、チャレンジする力、協力する力、応援する力など）の中から、「自分はこれを頑張った」と言える力を、運動会などの行事や日々の取り組みを通して子どもたち一人ひとりが育んでいってほしいと願っています。行事でのこうした心の成長（非認知能力）は、日々の学習理解（認知能力）を高める大きな原動力にもなります。

このような活気あふれる日々の中で、私がいつも大切にしている励ましの言葉があります。それは「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」という姿勢です。中国の古い教えである『論語』の中に、次のような言葉があります。



「子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」

（※論語とは、孔子という偉い先生の言葉を弟子たちがまとめたものです）

「不如（しかず）」とは「及ばない」という意味です。つまり、「知識として知っている人は、それを好きな人にはかなわない。しかし、好きな人も、それを心から楽しんでいる人にはかなわない」

ということです。

楽しむためには「もっと知りたい」「うまくなりたい」という知識や理解（認知能力）が必要ですし、好きで主体的に（すすんで）取り組むからこそ深く楽しむことができます。この「知る・好む・楽しむ（知・好・楽）」の3つは決してバラバラなものではなく、お互いに繋がり合って学びや成長を深めていきます。

「すすんで行動する」気持ちから、「好きなことをする」「人のためにする」、そして何より「楽しんでする」へ——。

さまざまな行事や学習を通して認知能力・非認知能力をともに高め、全員が笑顔で「これを頑張った！」と言える充実した2学期にしていきたいと思います。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。